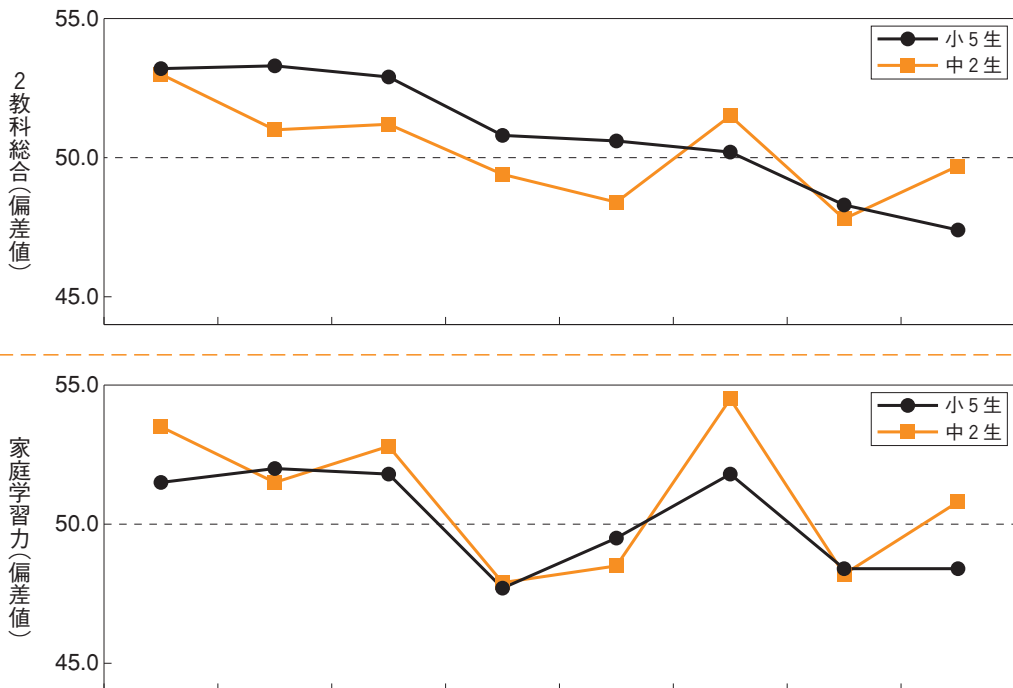


# 12 「総合教育力」構築の大切さ

先に、家庭や学校での子どもへの働きかけのパターンによる子どもの家庭学習力や教科学力との関係を見たが、教師の家庭学習支援力、保護者の家庭学習支援力、および学校の経営力のそれぞれの高低のパターンと子どもの家庭学習力や教科学力との違いを調べたのが下のグラフである。

**家庭学習力は相対的に保護者の影響が大きい**が、**教科学力は、教師の指導力、保護者の働きかけ、学校の経営力がともに高いパターンで最も高い傾向がある。**

図表 12-1 総合教育力のパターンと家庭学習力 & 2教科総合との関係



パターン		A	B	C	D	E	F	G	H
教師の家庭学習指導力		○	○	×	○	○	×	×	×
保護者の家庭学習支援力		○	○	○	×	×	○	×	×
学校経営力(家庭学習充実)		○	×	○	○	×	×	○	×
2教科総合 (偏差値)	小5生	53.2	53.3	52.9	50.8	50.6	50.2	48.3	47.4
	中2生	53.0	51.0	51.2	49.4	48.4	51.5	47.8	49.7
家庭学習力 (偏差値)	小5生	51.5	52.0	51.8	47.7	49.5	51.8	48.4	48.4
	中2生	53.5	51.5	52.8	47.9	48.5	54.5	48.2	50.8

図表 12-1 は、教師の家庭学習指導力、保護者の家庭学習支援力、学校の家庭学習充実への経営力の各総合スコアの平均以上(○)・平均未満(×)によって子どもを8つのパターンにグルーピングし、それぞれのグループに属する子どもの「家庭学習力」スコア(偏差値)と「2教科総合」スコア(偏差値)をグラフにしたものである。

家庭学習力については、とくに中学校で、保護者のみ平均以上のパターンFで最も高いという他と異なる形を示しており、小学校についても同様な傾向がうかがえる。しかし、全体として、保護者を含み教師の指導力か学校の経営力のいずれか、あるいはともに高いパターンで子どもの家庭学習力が高い傾向が読み取れる。

教科学力については、中学校では教師の家庭学習指導力、保護者の家庭学習支援力、学校の経営力の3つがともに高いパターンAで子どもの教科学力が最も高く、小学校についてもパターンAとパターンBがやや逆転しているが、三者のうちの平均未満のものが増えるほど、子どもの教科学力が低下する傾向を示している。中学校では、保護者のみ平均以上のパターンFが家庭学習力の場合に対応する形で教科学力も高い傾向を示すが、三者ともに平均以上のパターンAの教科学力の水準には達しておらず、やはり三者それぞれがその役割を發揮していくことの大切さを示唆していると考えられる。